

平成24年10月27日、本市にとって初めてとなる姉妹都市盟約を『長崎県西海市』と結びました。

今年で盟約締結から5年を迎えますので、まだ知られていない『姉妹都市・西海市』の魅力を今月号から隔月で紹介していきます。

編

西海市



第1回

きてみらんね 西海市



西海市は長崎県の西端、西彼杵半島の北部にあり、長崎市と佐世保市の中間に位置しています。人口は約2万9千人、面積は242・01平方キロメートルで、平成17年4月に5町が合併し西海市となりました。

西海市は天正遣欧少年使節の一員として、本市の伊東マシヨと共にローマ教皇との謁見を果たした、中浦ジュリアンの出生の地であります。その縁で、「天正遣欧少年使節ゆかりの地」として本市と交流を続けてきました。また、両市とも「西」の頭文字を掲げ、市勢規模、市の木、市の鳥など多くの類似点があったことから、姉妹都市の盟約を結んだところです。

西海市には本市と同様、豊かな自然をはじめ、先人たちが



西都市でも販売され、毎回好評の「うず潮カキ」

が築き上げた歴史や文化、産業など貴重な財産が豊富に存在しています。特に三方を大村湾と東シナ海に囲まれた西海市は「うず潮カキ」「えべす蛸」「伊勢海老」などをはじめとした豊富な海産物、そして海風に育まれた種類豊富な柑橘類、造船所が作る「大島トマト」など山の幸も豊富にあります。

さらに、観光地としても優れた自然景観を有しており、西海国立公園、大村湾国立公園、西彼杵半島国立公園の3つの自然公園が指定されています。その他「西海橋」「バイオパーク」旧オランダ村を活用した「ポートホール長崎」など、見所がたくさんあります。

そんな魅力がたくさんある西海市について、次回から詳しく紹介していきます。



西海橋